12
２０２１．１２．１０
No．３１８

ど～ら

株式会社パートナーズプロジェクト
平成14年6月11日初刊
発行責任者：髙野　裕
ど～ら編集部
https://www.3d-m.jp/

今月のホワイエはクリスマス☆
リニューアル工事が終わり新応接室ができました。

WEBセミナーを行いました　「アフターコロナ」を好機に

第１部

講師：コアコンサルティング
中小企業診断士　土田　正憲

１１月１２日（金）今年最後の「経営者応援セミナー」を行いました。

第１部では「将来あるべき姿を定めてその姿と現状とのギャップを埋めることが会社の存続・成長にも繋がる」の言葉が印象でした。会社だけでなく、個人としても、将来の姿を定めて、その姿に近づくためにはどうしたら良いかを考えて行動することが自分の成長にも繋がると思いました。

第２部

講師：(株)ネオス
アカウントマネージャー　村上　敦子

講師：(株)ネオス
プランナー　加藤　雄吉郎

また、第２部の、会社の周年事業では社内外に感謝を伝える好機以外にも未来に向けて発展を続けるための重要な役割を担っていることを知りました。今は多くの人を集めて開催することが難しい時代ですが、過去と未来の結節点である「周年」を大事にすることで会社の継続にも繋がることが分かりました。
（田中里）

たくさんの方のご参加ありがとうございました。

拝啓経営者殿

今月はこちらのお二人の記事が掲載されています。弊社ホームページにて毎月更新しております。
記事の内容や裏話などの動画も配信しています、ＱＲコードから是非ご覧ください。

「ＳＤＧＳ」

ＭＳアカデミー株式会社
代表取締役　遠山　肇

HPはこちら

「一時所得にご注意を！」

丸山公認会計士事務所
公認会計士　丸山　利彦

HPはこちら

２０２２年基本方針　「パートナーズプロジェクト２．０」

株式会社パートナーズプロジェクト　代表取締役　髙野　裕

センチメンタル・ジャーニーという言葉を聞いたことがあるだろうか。日本では「感傷旅行」などと訳されて弘田三枝子、本家アメリカではドリスデイが歌うポピュラー音楽、またはタレント松本伊代の歌う歌のタイトルだ。ジャーニーとは旅行の意味だが、小旅行のトリップやトラベルなどとは少しニュアンスが違う。もう少し長い旅程などという意味に使われる。しかし、私がお話ししたいのは、我々がデジタル社会という旅に歩み出すという意味で、「デジタル・ジャーニー」という話をしたい。

コロナ禍いやがおうなく新しいステージを歩き出さざるをえなくなった。明治維新で、江戸が明治に変わったように、コロナ禍でデジタル社会に一気に変わってしまった。新しいステージに入ったという意識だ。ただし、デジタル社会は、逆にアナログが貴重な存在になったという意味でもある。デジタル社会が進めば進むほど、あなた自身の優しさ、教養や気品、趣味、それらすべてを含んだ「人間性」が問われる。

そういう時代を歩み始めるという意味が「デジタル・ジャーニー」で、その決意を表す言葉が「パートナーズプロジェクト２．０」、我が社の来年度方針なのだ。

思わず撮った！気になった！美味しいものやステキな風景など、携帯電話に入っているお気に入りの写真を順番に紹介していきます！

カシャ!!

お気に入りの一枚

第２３回　吉田　弘美

私は、新潟市西蒲区（旧巻町）の超ド田舎出身です。小学校の校歌は『鍬取る父や母達の～』と歌われ、角田山を望むのどかな田園風景しかない所・・・でしたが、『上堰潟（うわせきがた）公園』が整備されて、春は『菜の花と桜』、秋は『藁アート』で大渋滞が出来る程の名所が出来ました。私も春は桜のトンネルの下でウォーキングを楽しみます。そしてなんとカフェまで出来ました。近くの中華料理店もボリュームがありおいしく人気があります。